



平成20年度第3回研修会報告

平成21年1月28日(水曜日)、千葉市生涯学習センター研修室を会場に、62名の参加を得て本年度の第3回研修会を開催しました。

今回の研修は、国立国会図書館から講師をお招きしての講演、その後、千葉市中央図書館の事例報告と施設の見学を実施しました。

日程・内容は下記のとおりです。

- | | |
|-------------|---------------------------------|
| ○ 講演会 | 午後2時00分～3時20分 |
| ・テーマ | 「インターネットで使える国立国会図書館のレファレンス・ツール」 |
| ・講師 | 中村 若生 氏 (国立国会図書館主題情報部参考企画課) |
| ○ 事例報告・施設見学 | 午後3時30分～4時50分 |
| ・テーマ | 「千葉市政の出前講座と図書館」 |
| ・報告者 | 古川 和子 氏 (千葉市中央図書館情報資料課) |

1 講演会報告

千葉県立中央図書館 田中 雅 美

今回の講演会は、「インターネットで使える国立国会図書館のレファレンス・ツール」と題して、国立国会図書館主題情報部参考企画課の中村若生(わかお)氏よりお話しいただきました。

講師の中村氏は、これまでNDL-OPAC(国立国会図書館蔵書検索・申込システム)の裏側の業務システムの開発や人文総合情報室でのレファレンス担当の後、現在は電話での資料案内を担当されております。

講演ではまず、国立国会図書館(以下「NDL」と表記)の概要を説明いただきました。よく質問されるのは、

- ①「日本の図書館で一番大きいところ？」
- ②「すべての出版物が所蔵されている？」
- ③「本は借りられる？」

この質問への回答の形で説明すると、次のようになります。



< 講演中の中村氏 >

- ①資料の数は一番多い。国会法の規定にもとづき国立国会図書館法により設立された施設で、役割の中に図書館協力があります。
- ②国内で発行された出版物は収集していますが、すべて所蔵している訳ではありません。1948年以前に発行されたものは納本制度の対象になっておらず、また、平成19年度調査では取次経由の図書の納本率は90%程度です。
- ③個人貸出はしていませんが、図書館間貸出は行っています。

また、千葉市図書館情報ネットワーク協議会から考えると、加盟館の利用者はNDLにも行ける距離にあるという地理的利点があることに触れられました。事前アンケートの結果でも、NDLを利用者に案内したことがあるという回答が55%あったとのことでした。

以上を踏まえて、本題の「インターネットで使えるNDLのレファレンス・ツール」の解説がありました。

まず、「資料を探す」ツールとしてNDLホームページのメニュー「資料の検索」にあるNDL-OPAC、総合目録ネットワークシステムを事例に沿って解説されました。ここでは、The economistの例のように、関西館に所蔵している雑誌巻号でも「電子ジャーナル提供タイトルリスト」を見ることで、東京本館内で電子データを閲覧できることがわかるというのが発見でした。

次に「本文を読む」ツールとして「近代デジタルライブラリー」、「ものごとを調べる」ツールとしてメニュー「調べ案内」にある「テーマ別調べ案内」、「レファレンス協同データベース」、「日本と世界の議会・法令・官庁資料」、「雑誌記事索引」を解説されました。

「テーマ別調べ案内」の説明では、千葉県立図書館の「千葉県関係索引データ検索」が、地方ならではの仕事だとして言及されました。千葉県関係情報の索引作成に関しては、千葉県立図書館の責任は重大であると改めて感じました。

また最後に、それでも見つからなければ、として、「図書館員の方へ」の案内、図書館員向け研修情報、NDLのレファレンス・サービスや利用の案内もありました。

質疑応答で出た話では、近代デジタルライブラリーとして公開されている明治・大正期の資料については、著作権保護期間が満了した資料は、各館のプリントアウトサービスの状況に応じて提供して構わないが、著作権保護期間が満了していない（文化庁裁定または著作権者の許諾を得て公開している）資料は、プリントアウトの提供は不可とのことでした。また、NDLホームページに掲載されている「調べ案内」を自館で利用者へ継続的に提供したい場合は、NDLに連絡すれば可とのことでしたが、各自治体で編集してパスファインダー等として提供する例も紹介されていました。



< 研修会の様子 >

今までNDL-OPACについては、NDLの所蔵検索や総合目録ネットワークシステムの検索はよく利用していましたが、調べ案内等もレファレンスツールのひとつとして予め目を通しておこなうてはと思いましたが、また、NDLが核になって全国の図書館がネットワーク化されたことで、自館で作成した索引やレファレンスデータが他館のツールとして容易に利用できるようになったことを実感し、全国の図書館で協力し合ってレファレンスを行っていくイメージを新たにしました。

2 事例報告

「千葉市政の出前講座と図書館」

千葉市中央図書館 古川 和子

・千葉市政出前講座とは

千葉市では、市民の市政に対する理解を深め、参加と協働のまちづくりを推進するために、職員が市民等の要請に応じて、市の施策や制度、事業について説明に出向き対話する制度で、平成18年度から実施しています。市民部地域振興課広聴相談係が窓口となり、毎年各部局からテーマを募り、市民の申し込みを受けています。20年度は164テーマが、人事委員会以外の各部局、委員会、区役所から挙げられています。

出前講座の内容と実施結果、図書館事業の中での位置づけ、今後の取組みについて報告しました。

・図書館の出前講座テーマ

市政出前講座が始まった18年度から図書館が掲げているテーマは、図書館をあまり利用していない方向けに、利用案内の内容を具体的に紹介するためのもの。(20年度のタイトルは「知って得する図書館利用法」)。また、19年4月から、図書館ホームページからの資料予約や借りている資料の延長処理ができるようになったことから、もう一つのテーマ「図書館を上手に使いこなそう～図書館活用術～」(千葉県図書館ホームページの活用法や図書館員が活用している調べものに便利なサイトの紹介など)を設けました。

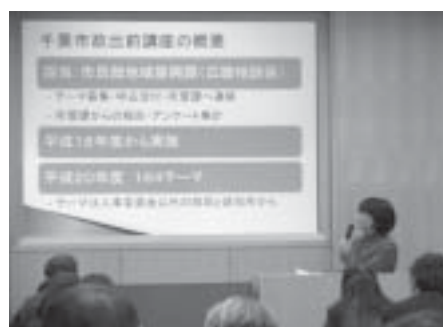
千葉市の図書館と公民館図書室を合わせた登録者数は、昨年(18年度)の4月1日時点で約55万人(市内在住登録約51万人)と、市民の6割近い人数となっていますが、この数値は累計であり、19年度中に1回でも資料を借りた市民の数となると14万3,500人で、市民の15.3%にすぎません。中央図書館が開館した13年度は20.1%だったものが、ずっと減少傾向にあり、にもかかわらず、貸出数は微増しており、一人当たりの貸出数は13年度の23.5点に対し、19年度は33.2点であり、資料の貸出利用という点から見ると、ヘビーユーザーと利用しない人にわかれていく傾向にあります。図書館の機能を広くPRし、利用を促進する必要がある、まだまだある、ということでもあります。

・出前講座の課題

実際の申し込みは、18年度1回、20年度に1回。いずれも、「千葉市図書館を考える会」による申し込みで、会場も地区図書館で行いました。

「千葉市政出前講座」の申し込みの条件は、概ね20人以上が参加し、会場は申込者が用意することになっています。ある程度の人数と場所の提供が可能なところで、こうした会合を定期的に行うことができるのは、自治会、PTAや保護者会、育成委員会などが考えられます。図書館の利用をすすめるには、こうした地域の自治会などに対して「千葉市政出前講座」の広報と時期を合わせて、売り込んでいくことが必要になってきます。

一方、積極的に図書館から「売り込み」または「呼び込み」して、利用の促進を図るには、講師となる職員の養成も課題であり、研修や講座テキストの見直しを始めています。図書館の魅力をアピールするためには、図書館内の研修だけでなく、プレゼンテーション研修など市の職員研修にも、計画的に派遣する必要もあります。



<千葉市中央図書館 古川氏>

・ミニ利用講座の実施

ホームページの活用などは、テキストだけで行うのではなく、実際に操作でき、画面で確認しながら質問を受けられれば、より実践的な講座となり、満足度は上がると思われます。先日、試行として、地区図書館で、館内整理日に図書館活用講座を行いました。内容は、利用している図書館の資料情報票の見方と本の配列や、パスワードの登録から検索、予約、延期を館内OPACからできるようにするまででしたが、すでにインターネット予約をしている方でも、検索結果の並べ替えなどは利用しておらず、喜ばれたとのことでした。

館内の機器の台数から、1回の募集人数は4人程度となるが、参加者とのコミュニケーションも十分でき、職員も、こうした講座を経験することで、さらに人数が多い講座でも対応できる力を身につけられると思います。今後、各地区図書館に拡大することや、職場体験学習の一環で図書館に来る中学生の実習の中に取り込むことを検討しています。

・出前講座と図書館～視点を変えて～

19年度に申し込みの多かった出前講座のテーマは「家庭における地震対策」「高齢者の健康づくりと介護予防」「実践！ごみ減量・再資源化」「かわります高齢者の医療制度」となっており、市民の関心度の高いものがわかります。また、「感染症の知識」「上手な病院のかかり方」「認知症とその対策」など、医療情報サービスと関連させての講座を行えそうなテーマも並んでいます。「出前講座テーマ集」には、市の施策の中で、積極的にPRしたいものがあげられており、図書館が情報提供を進める上でのヒント(担当部署との連携、資料展示と講座の組み合わせ、ブックリストや調べ方ガイド作成 etc.)が詰まっており、これからの図書館サービスの中で生かしたいと思っています。

加盟館だより



植草学園大学図書館

「新図書館オープン」

植草学園大学図書館 下山 美奈

平成21年1月5日、蔵書数約22,000冊の教育、医療・福祉系専門図書と約180種類の学術雑誌をそろえた新図書館がついに開館しました。

新図書館棟“UEKUSAメディアゲートウェイ”に一歩足を踏み入ると、ガラス張りの開放的な構造がモダンで知的な空間を創造しています。吹き抜けの広々とした窓からはやさしい日の光が降りそそぎ、桜の木を臨む庭園では四季折々の木々や草花が季節の移ろいを運んできてくれます。最新鋭の設備を備えたスタイリッシュなイメージとホッと心癒されるリラックスした空間とがうまく融和しています。

1Fには、自由にPCやAV資料を利用できるメディアコモンズがあり、新聞・雑誌コーナーに設けたリラクゼーションチェアでゆったりと寛ぐことができます。2Fでは、共同研究やグループミーティング等で利用できるラーニングコモンズを設けるとともに、個人で集中して学習・研究のできるプライベートブースまで完備しました。

情報だけでなく、人と人、心と心を繋ぎ、良書に出会える場所を提供します！！

【施設概要】

- ・面積（図書館専有部分）：1,182㎡
- ・収容可能冊数：約5万冊
- ・閲覧座席数：190席
- ・視聴覚機器：4台
- ・利用者用PC（備付分）：約50台
- ・主な利用スペース：
 - 1F 情報交流ラウンジ、インフォメーションコモンズ（PC、AV等）
 - 2F 開架図書（エリアA/B/C）、ラーニングコモンズ（1・2）、研究個室等



< 新図書館棟の外観 >



< 閲覧室 >

◇千葉市図書館情報ネットワーク協議会ホームページ

<http://wwwsoc.nii.ac.jp/ccal/index.html>

Network通信 No.31

2009年3月18日

発行：千葉市図書館情報ネットワーク協議会

事務局：千葉市中央図書館内

〒260-0045 千葉市中央区弁天3-7-7

Tel 043-287-4081 Fax 043-287-4074